

日本大学

生物資源科学部

校友会会報

2012 第65号



あなたとともに
100万人の仲間とともに

自由創造
日本大学

《目

ご挨拶	2
自分のない「いい人」になるな	2
平成24年度総会・懇親会開催	3
平成23年度校友会決算および	
平成24年度校友会会計予算	3
平成24年度日本大学	
生物資源科学部就職事情	4
校友だより	4
東日本大震災支援報告	6
農学校友会(植物資源科学科)	7
紫友会(生命化学科)	8
角笛会(獣医学科)	9
満喜葉会(動物資源科学科)	10

次》

いもづる会(食品ビジネス学科)	11
あすなろ会(森林資源科学科)	12
桜水会(海洋生物資源科学科)	13
工学会(生物環境工学科)	14
F T会(食品生命学科)	15
拓友会(国際地域開発学科)	16
応用生物科学科校友会(応用生物科学科) ..	17
短期大学部湘南校友会	
(短期大学部生物資源学科)	18
支部だより	19
校友会役員・事務局名簿	20
校友会事務局からのお知らせ	20
平成25年度通常総会通知	20

「ご挨拶」

日本大学生物資源科学部 学部長 河野 英一

日本大学生物資源科学部校友会の皆様には、ご清栄にてお過ごしのことと拝察申し上げます。また、皆様には、平素に本学部の教育、研究、学生支援等に多大なご援助を、特に近年には毎年度経済的な困窮学生の多数へ多大な奨学金の給付を戴いておりますことに対しまして、本学部を代表して心より感謝申し上げます次第でございます。

さて、今回は本学部発の製造品についてご紹介をさせていただきます。今や、国公立大学を問わずどここの大学とも、教育費への公的助成はこれまで通りであります。研究費へのものが減らされ、自らで特許などの知的財産や生産・製造品を販売して研究費・運営費を獲得していかなければならない時代の到来となっております。

そこで、本学部では、神奈川県藤沢市の湘南キャンパスの教育農場で昨年秋に収穫したサツマイモ（種類は紅あずま）4.5tを用

いて、本学の教育理念・目的を酒名とした芋焼酎「自主創造（酒名ラベルの文字は田中理事長の直筆、包装紙箱の緋色は日大カラー）」

芋焼酎「自主創造」の由来・・・湘南藤沢地域の台地面は、一万年以前に富士・箱根火山から噴出して降り積もった火山灰である関東ロームに厚く被われています。地球・地域環境の悠久の移ろいの中で、このロームの表層は培われ、肥沃な黒土となりました。

地球・地域環境の恵みの黒土が広がる大学の教育農場で学生諸君と一緒に丹精に栽培したサツマイモ「紅あずま」から、焼酎「自主創造」を作りました。

「自主創造」には、「人は地球・地域環境を大切に自らの進むべき道を熟考、決断し、歩むべし」という思いを込めています。

を販売目的で製造（造酒は鹿児島県のメーカーに委託）いたしました。この芋焼酎を詰めた720ml（4合）ビン・5,500本（1,800



円／本）の販売が本年2月より開始されております。本学部をはじめ、本学部各学科、大学本部、他学部等の各種行事の祝宴でご使用を戴き、果物風味、フルーティなオン・ザ・ロックが好評であり、お陰様で残り1,000本ほどとなっております。本学部の研究費・運営費のご助成のため、愛飲賜りますれば幸甚に存じ上げます。焼酎の購入については、学部内の購買部で購入可能です。なお、本年度も秋収穫のサツマイモ（種類は黄金千貫）を用いて芋焼酎を製造いたす予定であります。

手前味噌の紹介を申し上げまして、平にご容赦の程願ひ上げます。本学部校友会の皆様のご多幸と当校友会のますますのご発展を平素に祈念申し上げておりますことを申し述べて、ご挨拶の終わりとさせていただきます。

自分のない「いい人」になるな

日本大学生物資源科学部校友会 会長 内田 俊太郎

私は、作家曾野綾子さんの、人間としてどう生きて行かなければならないのか、と言う考え方と行動に深く共感しています。

曾野綾子さんが産経新聞に毎週掲載している「透明な歳月の光」を読み、この文章をいつか生物資源科学部校友会準会員の皆様に読んでいただきたと考え、今回その一部を校友会報に掲載いたしました。一つでも心に響く言葉を見つめることができずれば幸いです。

曾野綾子さんの文章より

就職活動は若い人達にとっても、新人を採る方にしても、就職試験の面接は、昨今楽しいことではない。親の仕事も家庭環境も聞いてはいけなと、たががはめられている。

面接者は、同じような仕方でお辞儀をし、誰もが同じリクルートスーツを着て没個性そのものである。

さらに「あなたのいい点はどこですか？」などと言う質問に対して、自分の美点を滔々と述べる恥知らずな態度も普遍化している。

昔は謙遜の美德というものを世間が知っていたから、そんなばかな質問はしなかった。近年日本の教育は、勇気をそぎ落とすような方向にばかり舵を切ってきた。

面接の練習というものがあり、こういう場合はこう答えろ、と教えるらしい。自分の出自をまっとうに受け止めた強力な個性のある返答など、出てくるわけがないし、そういう答えを評価する試験官もいないだろう。

かくして若者たちは、右にも左にも倣えで、無難であることが一番大切なことだと思うようになる。今はそんな退屈な人ばかりが増えたというのである。勇気がない人が困るのはすべての結果を他者のせいにする事だ。学校が、世間が、友達が、ああ言ったからこうなったと人のせいにする。他罰的なものの考え方をする人は、実は弱者を装った暴力的な人間なのだが、世間はそこからくりがつかない。

そういう人物を会社で採ったら、初めはおとなしくていい人だと



思うかもしれないが、後で困った存在になる。おとなしくていい人というのは実はあまりいいのである。おとなしい人というのは自分の考えのない人のことだから、力関係でどんなふうにもなびく弱い性格を示している。

当節日本人なら、日本語で読み書き会話が自由自在にできるだろうと思うのも間違いで、本を読んでいないので自分の思いをうまく表現できない若者は多い。更にその上に、表現したい内容も持ち合わさないとすれば、人間としての意思疎通は不可能になる。もっと困る性格はしたいことを持たない人だ。こういう人物は自分という錨がないので、世間に流されて精神的な暴徒になりやすい。

誰しも自分の目的は自分で見つける。社会はそれを応援する姿勢でいる。



平成24年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会・懇親会報告

平成24年度の通常総会及び懇親会は平成24年7月14日(土)開催しました。

通常総会は、日本大学生物資源科学部NUホールにおいて午後2時から77名の会員のご出席をいただき、木島幹事長の司会進行で開始しました。

議長に紫友会木嶋会長が就任し、議事に先立ち議事録作成者及び議事録署名人の指名を行い、次に事務局から報告事項として、平成24年度表彰受賞者は紫友会湯山駿介会員、紫友会江刺琢磨会員、満喜葉会遠藤克会員、あすなろ会赤塚敏夫会員、短期大学部湘南校友会鈴木勝春会員及び農学校友会長島勝美会員の計6名の会員が紹介・報告されました。続いて幹事長が本日(7月14日)付けで木島幹事長から拓友会の早川幹事に交代することが報告されました。

その後、議案に従い審議が行われました。

今年度の議案は次の3案で

①平成23年度事業報告及び平成23年度会計決算

②平成24年度事業計画及び平成24年度会計予算

③分会選出幹事の交代

事務局が説明し審議の結果、3案とも賛成多数で承認されました。

なお、分会選出幹事の交代では、拓友会小谷田操会員、紫友会浜野光年会員、あすなろ会濱本和敏会員及び農学校友会葉山嘉一会員の計4名の会員が新幹事として承認されました。

審議終了後、木嶋議長は議長を辞任、木島幹事長が閉会宣言し、午後3時13分平成24年度通常総会は閉会しました。

懇親会は、学部内食堂棟において午後4時から大塚吉兵衛日本大学総長、石井進日本大学常

務理事、河野英一生物資源科学部長をはじめ、日本大学本部校友会及び他学部校友会の来賓の方々並びに学部教職員及び会員の方々計170余名のご出席をいただき、早川新幹事長の開会の辞、司会進行で開始しました。

まず、校歌斉唱、その後内田校友会会長挨拶、来賓の挨拶、平成24年度表彰状授与、小野宮城県支部長から東日本大震災支援に対するお礼の挨拶と続き、浅海俊明生物資源科学部事務局長による乾杯のご発声の後、懇親会が始まりました。

今年度は、分会毎にテーブル席を設け今まで以上に旧交を温めていただきました。

約2時間の懇親会の時間もあっという間に過ぎ来年の再会を約束し、早川新幹事長の閉会の辞で午後6時15分平成24年度懇親会は終了しました。

平成23年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計決算

自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)		(金額単位:円)			
科 目	23年度予算(A)	23年度決算(B)	差 異(A-B)	摘 要	
1. 前年度繰越金	10,919,078	30,001,299	▲19,082,221	23年度決算の内訳は現金81,672円、預貯金29,919,627円	
2. 会 費 収 入	47,400,000	40,483,800	6,916,200		
1) 準会員還付金	47,100,000	39,994,800	7,105,200	(7,648名×6,000円)×(100-15%)⇒7月29日、11月30日入金	
2) 正会員還付金	300,000	489,000	▲189,000	(163名×3,000円)⇒7月29日入金	
3. 会合会費・祝金等	1,000,000	863,000	137,000	総会・懇親会等の会費及び祝金等	
4. 雑 収 入	23,922	129,406	▲105,484	預貯金利息等及び分会からの拠入金110千円	
5. 積立金取崩繰入金	0	0	0		
6. 分会からの基金繰入金	3,697,000	0	3,697,000	校友会60周年記念に伴う各分会からの基金原資積立金	
収 入 合 計	63,040,000	71,477,505	▲8,437,505		

平成24年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計予算

自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)		(金額単位:円)			
科 目	24年度予算(A)	23年度決算(B)	差 異(A-B)	摘 要	
1. 前年度繰越金	24,798,759	30,001,299	▲5,202,540	23年度の内訳は現金81,672円、預貯金29,919,627円	
2. 会 費 収 入	44,526,000	40,483,800	4,042,200		
1) 準会員還付金収入	44,220,000	39,994,800	4,225,200	(7,370名×6,000円)⇒5ヵ年平均	
2) 正会員還付金収入	306,000	489,000	▲183,000	(102名×3,000円)⇒5ヵ年平均	
3. 寄 附 金 収 入	0	0	0		
4. 祝 金 等 収 入	1,000,000	863,000	137,000	総会・懇親会等の会費祝金、その他	
5. 雑 収 入	128,610	129,406	▲796	預貯金利息及び分会からの拠入金110千円	
収 入 合 計	70,453,369	71,477,505	▲1,024,136		

(支出の部)		(金額単位:円)			
科 目	23年度予算(A)	23年度決算(B)	差 異(A-B)	摘 要	
1. 分 会 交 付 金	23,550,000	22,899,000	651,000	(7,633名×3,000円)⇒8月8日、3月19日交付、大学院除く。	
2. 経 常 費	12,160,000	11,157,521	1,002,479		
1) 人 件 費	4,200,000	3,804,600	395,400	給与、通勤費、アルバイト費用他	
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	0	日本大学本部校友会に対する支部会費及び役員会費	
3) 事務局運営費	1,200,000	1,258,925	▲58,925	コピー機リース料18,165円/月、その他事務消耗品等	
4) 通 信 費	2,500,000	2,384,915	115,085	分会の会報発送補助費(12分会×200千円)、送料等。	
5) 会 合 費	1,200,000	801,027	398,973	幹事会、執行役員会等5委員会除く各種会合費	
6) 交 際 費	1,000,000	990,815	9,185	分会、支部、他学部等への慶弔費他	
7) 旅 費 交 通 費	1,500,000	1,358,669	141,331	旅費交通費、5委員会除く運営補助費	
8) 支 払 手 数 料	90,000	88,570	1,430	銀行振込み手数料	
3. 事 業 費	23,270,000	11,627,225	11,642,775		
1) 総 会 費	2,000,000	1,174,601	825,399	総会・懇親会開催経費等	
2) 広 報 費	1,800,000	1,718,585	81,415	会報発行費、HP作成費等の拡充費含む	
3) 総務委員会運営費	100,000	61,690	38,310	委員会会議、運営補助費他	
4) 財務委員会運営費	100,000	20,000	80,000	委員会会議、運営補助費他	
5) 企画委員会運営費	100,000	55,430	44,570	委員会会議、運営補助費他	
6) 広報委員会運営費	100,000	159,262	▲59,262	委員会・編集委員会会議、運営補助費他	
7) 組織委員会運営費	100,000	19,376	80,624	委員会会議、運営補助費他	
8) 記念事業費	100,000	0	100,000	支部記念事業補助	
9) 準会員対応費	11,520,000	7,623,825	3,896,175	奨学金、教育資料、展覧会、スポーツフェスタ他	
10) 表彰記念品費	150,000	85,944	64,056	表彰記念品他	
11) スポーツ振興対応費	300,000	1,000	299,000	日本大学スポーツ振興関連費用	
12) 箱根駅伝対応費	250,000	37,000	213,000	箱根駅伝応援費用	
13) 学部60周年記念基金	2,000,000	0	2,000,000	学部60周年記念事業への積立金	
14) 学部60周年記念準備費	200,000	0	200,000	学部60周年記念事業検討委員会費用	
15) 東日本大震災対応費	4,450,000	670,512	3,779,488	宮城県視察、お花お餅け餅等震災支援関連費用	
4. 予 備 費	4,060,000	995,000	3,065,000	22年度実施した発祥の碑移設費用1,995千円の残金	
当 期 支 出 合 計	63,040,000	46,678,746	16,361,254		
5. 次 年 度 繰 越 金	0	24,798,759	▲24,798,759	23年度次期繰越金は現金33,021円、預貯金24,765,738円	
支 出 合 計	63,040,000	71,477,505	▲8,437,505		

(支出の部)		(金額単位:円)			
科 目	24年度予算(A)	23年度決算(B)	差 異(A-B)	摘 要	
1. 分 会 交 付 金	22,821,000	22,899,000	▲78,000	(7,607名×3,000円)⇒5ヵ年平均	
2. 経 常 費	11,760,000	11,157,521	602,479		
1) 人 件 費	3,800,000	3,804,600	▲4,600	給与、通勤費、アルバイト費用他、23年度比400千円減額計上	
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	0	日本大学本部校友会に対する支部会費及び役員会費	
3) 事務局運営費	1,200,000	1,258,925	▲58,925	事務消耗品他	
4) 通 信 費	2,500,000	2,384,915	115,085	会議室内切手代等、分会への会報補助費	
5) 会 合 費	1,200,000	801,027	398,973	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)他	
6) 交 際 費	1,000,000	990,815	9,185	分会、支部、他学部等への慶弔費他	
7) 旅 費 交 通 費	1,500,000	1,358,669	141,331	旅費交通費、運営補助費(5委員会除く)他	
8) 支 払 手 数 料	90,000	88,570	1,430	銀行振込み手数料	
3. 事 業 費	21,700,000	11,627,225	10,072,775		
1) 総 会 費	2,000,000	1,174,601	825,399	総会・懇親会開催経費等	
2) 広 報 費	2,350,000	1,718,585	631,415	会報発行費、HP作成費等の拡充費含む	
3) 総務委員会運営費	100,000	61,690	38,310	委員会会議、運営補助費他	
4) 財務委員会運営費	100,000	20,000	80,000	委員会会議、運営補助費他	
5) 企画委員会運営費	100,000	55,430	44,570	委員会会議、運営補助費他	
6) 広報委員会運営費	100,000	159,262	▲59,262	委員会及び編集委員会会議、運営補助費他	
7) 組織委員会運営費	100,000	19,376	80,624	委員会会議、運営補助費他	
8) 記念事業補助費	500,000	0	500,000	分会・支部等が行う記念事業に対する補助(限度100千円)	
9) 準会員対応費	10,000,000	7,623,825	2,376,175	奨学金、教育資料、展覧会及びスポーツフェスタ等への支援	
10) 表彰記念品費	100,000	85,944	14,056	表彰記念品他	
11) スポーツ振興対応費	300,000	1,000	299,000	日本大学スポーツ振興関連費用	
12) 箱根駅伝対応費	250,000	37,000	213,000	箱根駅伝応援費用	
13) 学部60周年記念基金	2,000,000	0	2,000,000	学部60周年記念事業への積立金	
14) 学部60周年記念準備費	200,000	0	200,000	学部60周年記念事業検討委員会費用	
15) 東日本大震災対応費	2,000,000	670,512	1,329,488	震災支援関連費用	
16) 組織拡充計画費	1,500,000	1,500,000	0	企画・組織委員会の新規事業	
4. 予 備 費	4,000,000	995,000	3,005,000		
当 期 支 出 合 計	60,281,000	46,678,746	13,602,254		
5. 次 年 度 繰 越 金	10,172,369	24,798,759	▲14,626,390	23年度の決算は現金33,021円、預貯金24,765,738円	
支 出 合 計	70,453,369	71,477,505	▲1,024,136		

平成24年度日本大学生物資源科学部就職事情

大学生の就職状況については、マスコミを賑わしており、卒業生の皆様にとっても関心事であると思いますので、昨年度の就職状況についてご紹介させていただきます。

平成20年9月のリーマンショックによる経済不況の影響や、昨年3月11日の東日本大震災などの影響から、平成23年度の就職はたいへん厳しい状況でした。文部科学省の学校基本調査(速報値)によると平成24年3月に正規の社員・職員等として就職した学部学生の割合(就職率)は60.0%(就職率)でした。本学部の就職率は64.1%であり、全国平均よりは若干高い状況ではありますが、決して満足のいく数

値ではありません。卒業生のおもな進路は卸・小売業(28.0%)、製造業(20.8%)、サービス業(14.5%)、公務員(6.4%)などでした。

本学部では就職指導課が中心となり、就職準備講座および公務員試験対策講座の開設、企業の人事担当者や就職専門家による直接指導など年間70以上の就職行事を実施するとともに、就職指導課スタッフが個別相談に



外部講師による就職ガイダンス

あたっており、学生からは一定の評価を得ております。しかし、就職に関心の低い学生がかなりの割合を占めることも事実です。そのため、学部では平成24年度から1年生を対象に「キャリアデザイン入門」、来年度からは2年生を対象に「キャリアデザイン概論」を開講して、入学後の早い段階から社会や就職に対する意識を高めることを目指しております。

先輩諸兄には、今後も後輩に接する機会があるかと存じますが、その折には温かいご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

(就職指導担当 杉田 治男)

校 友 だ よ り

環境保全型農業を実践して 植物資源科学科

平成7年卒業 長島 勝美

昨年の震災で被災された卒業生、そのご家族に、また最近の異常気象による豪雨災害などで被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。



私の卒業年の1995年は1月に阪神淡路大震災があり、欧州での農業研修が決まっていた私は震災のまだ癒えぬ日本を後にしたことが今でも忘れられません。ドイツでの研修を決めた理由は、日本と同じ敗戦国であり共に戦後成長し、その当時はG7に加入していたことと、EC圏でもあり。そのうち日本でもAPECから自由貿易経済圏が産まれると思い、その中での先進国農業を見てみたいと思ったからです。

現在、ながしま農園は年間約120品目に及ぶ野菜と野菜を加工した漬け物などの加工品をレストラン、百貨店、地元生協などに直接卸販売をしています。栽培の特徴はここ横須賀南端の三浦半島の一年を通した温暖な気候を利用して欧州での経験を生か

した環境負荷軽減の考えを元に環境保全型農業を実践しています。

平成19年には第12回全国環境保全型農業推進コンクールで農林水産大臣賞を頂きました。環境保全型と言うとすぐに有機栽培や特裁を思い浮かべられる方も多いと思いますが、環境保全の観点から使用する農薬の制限を設けたり、化学肥料の施ようをひかえるなどの対策もとっていますが、有機質肥料の使用制限も設けて出来るだけ畑の中だけで施した肥料が消費され河川や地下水などの外部に流出しないようにしています。

温室も7aほど有りますがその全ては無加温で季節に合わせて温室内も輪作し、ランニングコスト削減や生育適期に栽培する栽培負荷のかからない作型の選択で作業時間も抑制し露地よりは少し早い促成栽培で経済性を高めています。また多くの作型や作物を取り入れることで農業の繁期と閑期の差を少なくし、出荷点数の量と品揃えを確保することで売り場での占有率を高め顧客の商品供給への信頼を得ています。



出荷する野菜には氏名、住所、電話番号を明記したカードを添え生産者の責任を表しています。

また年間を通し多くの作業もあることから、高齢化する家族労働に頼る農家の体質から転換し家族外労働力を導入し雇用出来る環境を実現しています。すでに農園経営は15年が過ぎました。これからも魅力ある農業経営を目指し、新規参入が得意職業として。職業選択の出来る農業の実現を目指していきたいと思います。

『お菓子屋の独り言』

食品ビジネス学科

昭和54年卒業 笹井 秀昭

ロッテ(株)営業本部 東京圏統括支店
執行役員 統括支店長



近影……だいぶ白髪が増えました(笑)

私が本学(農獣医学部食品経済学科)を卒業して、早33年が過ぎ去りました。菓子業界で働きたいと思った理由は二つでした。

一つは無類の甘い物好きであった事、もう一つは社名の由来に夢とロマンを感じたからに他

次ページへ続く

なりません。ロッテという社名は、創業者である重光武雄会長が愛読していた、ゲーテの著書、『若きウェルテルの悩



み】のヒロインの名前にあやかり、多くの人々に愛される会社、親しまれる製品を世に多く出す！という精神からつけられたものです。おかげさまで今日、【お口の恋人ロッテ】というコーポレート・メッセージは7年連続で、全国想起率1位となっています(日経BPコンサルティング調査)。

創業1948年から、今年で64年が経ち、菓子売上では業界1位の地位を持続しております。会社の成長期に入社し、共に歩んできた事は、私の人生にとっても大きな岐路であったのではないかと思います。

昨年、東日本大震災で多くの方々が被災に遭われました。心からご冥福をお祈り申し上げますが、多くの方々が避難生活の中で苦しんでいた時に、心の安らぎや、ほんの少しの憩いを与えてくれた救援物資の中に【お菓子】がありました。お菓子は、一般食品と比較すると嗜好品であり、生活必需品では無いかもしれませんが、色々な生活シーンにおいて、人々に元気を与えてくれる物なのではないかと思います。子供達の笑顔、旅のお供、家族団らん憩いの一時に欠かせない物、そんなお菓子を扱う仕事に、誇りをもって生きてきました。

人は暮らしてゆくなかで、誰もが働かなければなりません。ただお金の為だけに職業を選ぶのではなく、一生のやりがいにつながる仕事が必要です。今春、卒業された大学生の6%の若者が就職活動をしないニートだという報道がありました。厳し

い就職環境下だとは察しますが、自分自身の可能性、夢の実現を信じて、就職という人生岐路に立ち向かって欲しいと願う今日この頃です。

「みんなでつくろう元気なあつぎ」 生物環境工学科

昭和47年卒業 小林 常良

昭和30年

代、夏。熱い日差しの中、土ぼこりが舞う急な坂道を、収穫した夏野菜が載ったりヤカーの後ろを押している



現 厚木市長

と、前で引く母親が汗をぬぐいながら「もっと通りやすい坂道になれば、多くの人に喜ばれるのにね。」と言った。この一言が今の私の「原点」である。大学卒業後、厚木市役所に入庁。土木職として市内のあらゆる道を歩いた。市民生活に直結する誇りある仕事をした後、厚木市議会議員、神奈川県議会議員を経験し、5年前に厚木市長に就任したのは、愛するまち厚木を「元気」にしたかったからである。

就任以来、「みんなでつくろう元気なあつぎ」をスローガンに掲げ、一貫して「現地対話主義」を信念に、厚木を大切に思う多くの市民と対話を重ね、市民との協働によるまちづくりを行っている。WHO(世界保健機関)が提唱する「セーフコミュニティ」の認証取得(国内3番目)、厚木市自治基本条例の制定、そして日本全国からB級グルメが集まる祭典「B-1グランプリ」を厚木の地に誘致した。特に「B-1



B-1グランプリ

グランプリinあつぎ」では、2日間で延べ約2,600人の市民ボランティアの協力をいただき、43万5,000人を超える来場者の方々に“おもてなしの心”で迎えた。この“おもてなしの心”は、現在

でも全てのイベントの原点となっている。

また、行財政改革は急務であり、就任直後から国よりもいち早く事業仕分けを行うとともに、徹底した効率化と確かな財政確保に努めている。その姿勢が「経営革新度2位」(全国809市区中、日本経済新聞社調)という評価につながった。これからますます厳しくなる地方自治体の財政状況の中、市民のため、厚木のために何をするべきなのか、何ができるのか、これまでの経験を生かし、行動力をもって、昼夜を問わず市政の舵取りをしていく覚悟である。

第9次厚木市総合計画に掲げる将来都市像「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市あつぎ」。この実現と『県央の雄都』としての更なる発展を目指し、常に良いまちづくりを考えながら、自分と同じように厚木を愛する人が増えて欲しいと願っている。夢は叶えるもの、立ち止まっても未来は切り拓けない、今をどうしていくか、希望をもってこれからも元気を発信し続けていくの3点です。

国連食糧農業機関(FAO) 食糧安全保障の達成 国際地域開発学科

昭和58年卒業 新野 有次

国連食糧農業機関(FAO)は食糧安全保障の達成を目標としており、私の仕事は、FAO地域事務所の環境グループのなか



で、アジア太平洋地域の天然資源の持続的利用と管理に関する助言等を行っています。

アジア太平洋地域の総土地面積は全世界の土地面積の26%を占めていますが、一人当たりでは世界平均の0.58haに対して0.28haと非常に限られた土地資源保有状況にあります。こうした土地の約13%は深刻な劣化として分類されており、総土地面積の約14%のみが農業利用に適していると推定されています。

次ページに続く

土壌劣化と砂漠化は、全ての国の生態系と経済に深刻な影響を与え、特に高地や急傾斜地等の脆弱土壌における森林伐採、過放牧や集約栽培は、土壌浸食や土壌肥沃度の損失をもたらし、山岳地帯などの環境脆弱な地域では、鉄砲水、地滑りや泥流等の災害をもたらしています。地域の貧しい人々、特に政治的、社会的に取り残された少数民族は、多くの場合最も深刻な土地劣化に起因する災害や困難の影響を受けています。

私たちのFAOアジア太平洋地域事務所では、持続可能な農業生産と農業生態系の維持保全をサポートするために、土地劣化の評価とモニタリング、持続可能な土地利用管理のための国および地域能力強化を支援する活動に従事しています。土壌は作物生産の基本ですが、今日の土壌や作物管理システムの多くは持続不可能となっており、土地の利用慣行を改善し作物生産の持続性強化のための健全な基礎を提供するため、a) 健全な土

地利用のための国家規制の確立、b) 土壌状況モニタリング、c) 能力強化、d) 有益情報の発信と共有が必要と考えています。

さらに、そのための国家間の利害関係の調整や協調体制を確立するための枠組み作りも支援しています。また、土地荒廃及び砂漠化対策、農業生物多様性の保全、気候変動対策、バイオエネルギー問題等に対応するための技術や政策作成など、多面的に加盟国への支援を行っています。

東日本大震災支援報告

日大FNECでの 福島親子サマーキャンプ 生物資源科学部

教授 糸長浩司 小林信一

福島原発事故で避難生活の続く福島県飯館村、川俣町山木屋地区住民の「親子サマーキャンプ」を、生物資源科学部が主催し、学部校友会の後援をいただき、8月9日から17日まで二回に分かれて朝霧高原の本学部富士自然教育センター(FNEC)で実施できました。昨年度からの継続です。地元の富士宮市の焼きそば普及グループの焼きそば実演や、全農、全酪連、雪印メグミルクなど12団体から食材の提供などを頂きました。深く感謝申し上げます。

飯館村は糸長研究室が約20年間「自然と共生する村づくり」を支援し、災害後も村人への継続支援をしています。川俣町山木屋地区は動物資源科学部が長年酪農実習等でお世話になった地区です。飯館村からは親子30名、山木屋からは親子43名の参加で、学生・教員も延35名が参加し楽しくリフレッシュの時間が過ごせました。FNECの自然を満喫し、楽しく学生と虫取りやゲームを楽しんだり、



FNECで虫取りを楽しむ
飯館村の子ども達

プロの音楽家の指導による紙笛、楽器づくり、近くの自然環境教育センター見学、盲導犬センター見学等の多様な体験・学習、さらに、



川俣町山木屋地区の子ども達と
田貫湖畔にて

牧場での牛の世話、乳しぼり、バターづくりなど多彩なプログラムに挑戦しました。子ども達の歓声と笑顔、お母さん達の安心した目線が印象的でした。来年度も継続できればと思っています。

東日本大震災被災地支援 花苗お届け隊 花卉園芸学研究室

准教授 窪田 聡



私たちは農業の花き分野を研究・教育対象としています。東日本大震災が発生した直後は、衣食住といった本当に命に直結する支援が行われており、花卉園芸分野の出番はありませんでした。しかし、あれだけの瓦礫が発生し、多くの人々が仮設住宅で暮らす環境は、震災前に暮らしていた環境に比べて著しく劣悪だと言うことは容易に想像が付きましました。そこで、私たちの分野でできる被災地への支援として、仮設住宅にお住まいの方々に実習で栽培した花をお届けしてはどうだろう

かと考え、学生を巻き込みながら昨年の4月から準備に取りかかりました。夏に盛期を迎える花を選び、種をまき育てていましたが肝心の花苗をお届けする場所が決まらず困っていたところ、校友会宮城県支部から学部へ支援の要請があり、そのお話を受けて宮城県東松島市赤井地区に花苗をお届けすることに決まりました。昨年8月の1回目の活動では、まだまだ民間の運送業者に配送をお願いすることはできず、農場のトラックに1000鉢の花苗を積み込み現地にお届けし、宮城県支部の小野支部長をはじめとした会員の方々、東北高校の生徒さん、卒業生や学生あわせて20名ほどで手分けしてプランターに植え込み、赤井第二中学校と4カ所の仮設住宅に配布しました。これらの苗は秋になると枯れてしまうので、昨年の11月には秋冬用の花苗を同じ仮設住宅にお届けし、また今年の6月にも夏用の花苗を1500苗ほどお届けして、学生とともに植え付けてきました。私たちの活動は本当に微力なものです。が、現地にお住まいの方々の生活が再建され、仮設住宅がなくなる目処が立つまで活動を継続していく予定です。学生の中には何か被災地の役に立ちたいと思っているけれど、行動に移せないというものが大勢いると思います。そのような意志を持った学生の思いを実現するというのも大学の役割の一つではないかと思っています。今回の活動には多くの方々のご協力を頂きました。特に学部校友会および宮城県支部小野支部長からは多大なるご支援を賜りましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。

農 学 校 友 会

◇植物資源科学科◇

連絡先 造園・緑地学研究室
0466-84-3523 事務局長 葉山 嘉一
E-mail: hayama@brs.nihon-u.ac.jp

平成24年度農学校友会 総会・懇親会開催

5月11日（土）、平成24年度農学校友会総会・懇親会が湘南キャンパスで開催されました。

総会は博物館2階の第1会議室で行なわれ、平成23年度事業報告・決算報告、監査報告および平成24年度事業計画、予算案等の審議がなされ、いずれも承認されました。また、平成25年10月12日（土）に農学校友会創立60周年記念祝賀会を開催することを決めました。60周年記念事業の詳細は今後理事会等で決定し、随時校友にお伝えしていく予定です。また、現在は植物資源科学科の卒業生数が農学科の卒業生数を上回ったので校友会の名称を学科の現況に即したものに検討することも決めました。



平成24年度農学校友会総会

その後行なわれた懇親会では河野英一学部長をはじめ、各学科校友会の会長さんをお迎えして、和やかな雰囲気の中で懇談がなされました。



懇親会の様子

植物資源科学科の近況

[卒業生・新入学生]

本年3月に165名(男子96名、女子69名)の学生(第66期生)が卒業し、社会に巣立って行きました。また、4月には新入学生155名(男子96名、女子59名)を迎え本年度は総数644名の学生が在籍しています。毎年、恒例となっている鵠沼海岸でのオリエンテーションは4月14日（土）に予定されていましたが、当日は朝から大雨で残念ながら中止となりました。また、5月22日（火）にはスポーツフェスタが



スポーツフェスタ

行なわれ、新入学生は農学校友会から寄贈されたおそろいのTシャツで競技に奮闘しました。

[学科教員の動き]

本年3月末をもって、作物学研究室の藤井秀昭准教授が退職されました。先生は昭和45年から本学科の教育・研究にご尽力いただきました。また、長く農学校友会の事務局長もお務めになりました。会員一同心から感謝申し上げるとともに、先生の今後の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

さらに、学科事務室の見上友香実習助手も本年3月に退職され、後任として植物資源科学科を卒業された西山あゆみ実習助手が採用されました。



西山 あゆみ 実習助手

[研究室の新設]

平成23年4月1日から新たに植物生産管理学研究室が新設されました。この研究室の教育・研究は百瀬博文専任講師が担当し、主に農作業の生産現場で生じる諸問題を解明していきます。

[訃報]

農学科第1期生で元農業気象学研究室教授の蒲原務先生が本年4月27日に逝去されました。また、造園学研究室元教授の横山光雄先生が平成22年10月15日に、作物学研究室元教授の長谷川新一先生が平成23年1月23日逝去されました。先生方は学生の教育と研究に励むとともに学部・学科の発展に大きな貢献をされました。ご冥福をお祈りいたします。

事務局より

本年4月より、庶務理事に井上弘明教授、事務局長に葉山嘉一准教授、庶務係に藤崎健一郎専任講師が就任いたしました。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。また、農学校友会ホームページが開設されています。

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~nogaku/> 会員各位の近況や住所変更および告知したいことなどをお知らせください。

(磯部勝孝)

紫 友 会

◇生命化学科◇

連絡先 栄養生理化学研究室
0466-84-3949 事務局長 関 泰一郎
E-mail: tseki@brs.nihon-u.ac.jp

平成24年度第1回理事会

平成24年4月21日(土)湘南校舎において平成24年度第1回理事会が開催されました。理事会では平成23年度事業報告、決算報告、監査報告等の審議がなされ承認されました。また、平成24年度の事業計画、予算案が決定されました。

平成24年度 第19回紫友会奨学生決定

紫友会40周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第19回生9名が、同奨学生選考委員会(春見隆文委員長)により厳正に選考され、下記(敬称略)のように決定いたしました。

- 2年次 椎谷 彩加、奥江 紗知子、御子柴 直紀
- 3年次 野崎 宮香、矢口 真実、岡田 紗代子
- 4年次 五味沢 晴香、三浦 徳、本田 和奈

生命化学科・農芸化学科の近況

【在校生】 本年3月25日に、本学部アリーナで開催された学位伝達式において、滝沢もえみさんが総長賞および優等賞、梅田千晶さん(学部長賞受領代表者)と菊池大志さんが学部長賞を授与され、平成23年度農芸化学科卒業生166名が社会へ羽ばたいて行きました。

本年4月には新入生147名を迎え、当学科には総計628名(男子:337名、女子:291名)の学生が在籍しております。

【学科教員動向】平成22年9月に退職された徳山龍明名誉教授(前学部長)は、引き続き日本大学法人顧問としてご活躍中です。平成23年3月末にご退職されました有賀豊彦元教授(栄養生理化学研究室)は、46年2か月の長きにわたる教育と研究の功績が認められ、本年7月名誉教授の称

号を授与されました。本年4月1日付けで、高橋令二先生(微生物機能化学研究室)が教授に、袴田航先生(生物分子機能化学研究室)が准教授に、細野崇先生(栄養生理化学研究室)が助教に昇格されました。同日、小林孝行助教(植物環境化学研究室)が着任されました。



小林 孝行 助教

小林先生は神戸大学大学院自然科学研究科にて博士(農学)の学位を取得後、産業技術総合研究所、茨城工業高等専門学校でご活躍でありました。

春見隆文教授(酵素化学研究室)が、「新規糖質素材エリスリトールの開発・利用に関する基礎研究」によって安藤百福賞優秀賞を、「微生物・酵素を活用した糖質の開発とその利用に関する基盤的研究」によって日本応用糖質科学会学会賞を受賞されました。

平成23年度長期海外派遣研究員として本年2月より一年間、中川達功専任講師(微生物機能化学研究室)がアメリカ ワシントン大学工学部 都市工学科に出張しております。また、平成23年度中期海外派遣研究員として昨年5月より半年間、フランス ストラスブール大学に留学されておりました荻原淳専任講師(酵素化学研究室)が帰国され、学科主催にて帰国報告会を行いました。

本年7月、(株)リクルートの就職担当者を講師にお招きし、本学科3年生および大学院博士前期課程1年生に対して就職セミナーを実施致しました。厳しい社会情勢ではありますが、紫友会会員の皆様による就職支援をお願い申し上げます。

本年8月7日～8日、本学科において日本農芸化学会関東支部主催で高校生のための実験セミナー「バイオサイエンススクール2012」を開催致しました。多くの高校生が参加し、本学科4年生および大学院生と共に楽しく



バイオサイエンススクール

実験を行いました。紫友会会員のご子息ご令嬢が実験セミナーに興味、関心をお持ちでしたら、ぜひ次の機会にご参加くださいますようお願い申し上げます。

紫友会事務局より

本年11月24日(土)に紫友会総会・懇親会を湘南キャンパスで開催いたします。会員の皆様の多数のご出席をお待ちしております。詳細は別途送付申し上げます。

校友会活動の一環として、紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が平成23年10月に開催



ソフトボール大会

され微生物機能化学研究室が優勝しました。表彰式の後、学生、教職員を交えて懇親会が開催されました。

本年3月に開催されました農芸化学科卒業生謝恩会に紫友会会長をご招待し、卒業生と広く交流を深めました。さらに、新入生歓迎行事、就職活動支援事業等の活動を支援しております。学科の体制、教育、研究の状況につきましては是非、学科ホームページ(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~cls/>)をご覧ください。また、本年度末を目処に紫友会ホームページの開設を予定しております。

会員の方で住所変更や改姓などがございましたら、お手数ですが事務局までご一報をお願い致します。(袴田 航)

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医病理学研究室
0466-84-3624 事務局長 渋谷 久
E-mail: shibuyah@brs.nihon-u.ac.jp

平成24年度角笛会総会・ 第50回日本大学獣医学会開催

平成24年7月1日（日）、市ヶ谷の日本大学桜門会館において平成24年度角笛会総会及び第50回日本大学獣医学会が開催され、日曜日にもかかわらず多くの会員が集まりました。日本大学獣医学会は第50回の記念大会でもあり、多数の研究発表と講演が行われ充実した内容でした。午前的一般講演では臨床および基礎・応用分野の2会場において臨床系からは10演題、基礎・応用系は6演題の研究発表があり、午後のシンポジウムでは小動物臨床分野において「高齢動物の疾患と対応」をテーマに、また産業動物・公衆衛生分野では「口蹄疫とその対応」と題してそれぞれ3人の専門家の講演がありました。

角笛会総会では中川秀樹会長より挨拶があり、田村幸生議長（昭和45年卒）の進行で審議が行われました。平成23年度の事業活動として行った東日本大震災獣医師動物救援募金や準会員への支援の報告がなされ、決算報告が承認されました。また角笛会同期会開催補助について審議され、クラス会の開催に際し、同期会名簿の提出をもって1万円の補助をすることが決定しました。これにより同期会が活発に開催され、かつ会員名簿の更新も期待されます。角笛会の発展に貢献した功労者として鈴木

篤氏（秋田県）、重田雅彦氏（茨城県）、大谷静雄氏（愛知県）、松本光和氏（愛知県）の4名に賞状と記念品が授与されました。また日本大学動物病院の獣医臨床技術の向上と臨床獣医学研究の活性化を目的としたANMEC支援基金研究助成は、大学院生の山田宏美氏（研究課題：イヌにおける脱分化脂肪細胞移植による脊髄再生療法の検討）が受賞しました。本年度は角笛会役員更新の年にあたり平成24年から25年度の新役員として、会長に中川秀樹氏、副会長に鳥海弘氏、蔵内勇夫氏、津曲茂久氏が選出、承認されました。

総会後、桜門会館4階にて開催された懇親会には学部校友会の内田俊太郎会長をはじめ他学科同僚校友会の来賓、角笛会校友、大学教員そして学部生（準会員）など111名が出席しました。茨城県支部の苦瀬義雄氏（昭和23年卒）の乾杯の音頭で開幕

第50回日本大学獣医学会・平成24年度角笛会



平成24年度角笛会懇親会の様子

し、校友と準会員学生が懇親を深める盛会になりました。

第10回日本大学医療系同窓・ 校友学術講演会の開催

日本大学医療系同窓・校友会（医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部校友

会、獣医学科校友会・角笛会）では毎年学術講演会を開催しております。医療領域に関わる広範囲な分野をカバーする日本大学の特徴を生かした学術講演会として、最新の知見を交換するとともに校友の親睦を深めてまいりました。平成23年度は角笛会の当番幹事のもと、10月15日（土）日本大学会館大講堂で第10回の講演会が開催されました。角笛会からは東京都支部の羽原弦史氏が「日本でも怖い狂犬病」と題して講演されました。また



第10回日本大学医療系同窓・校友学術講演会における羽原弦史氏の講演

懇親会は日本大学桜門会館で行われ、他学部の校友と親交を深めることができました。

本年度の第11回講演会は9月29日（土）に薬学部主幹で開催され、「がんの領域」をテーマにシンポジウム形式で行います（詳細は角笛会HPに掲載）。角笛会からは獣医学科獣医外科学研究室の浅野和之先生が「動物の癌治療の実際とプレクリニカルリサーチの可能性について」と題して発表する予定です。多数のご参加をお待ちしております。



平成24年度角笛会功労者の授与式

満喜葉会

◇動物資源科学科◇

連絡先 草地学研究室
0466-84-3652 事務局長 丹羽 美次
E-mail: niwa@brs.nihon-u.ac.jp

平成24年度満喜葉会 -活動経過報告-

【役員会の開催】

定例の理事会・幹事会合同の役員会は、平成24年5月26日(土)午後2時より、学部博物館2階第1会議室において開催されました。役員会は山本捷会長の挨拶から始まり、その後会長を議長として議事に移り、平成23年度事業報告、決算報告が事務局よりなされ、承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ、承認されました。続いて、平成24年度の事業計画ならびに予算案が事務局より提案され、承認されました。

【スポーツフェスタ、

新入生歓迎会の開催】

上記理事会・幹事会合同役員会の後、午後3時30分より本館地階カフェテリアにおいて、恒例の動物資源科学科主催新入生歓迎会(新準会員149名入会)が満喜葉会の協賛、学術研究部の協力のもと行われました。

例年、新入生歓迎会と同日に行われていた「スポーツフェスタ(2012)」は、歓迎会に先立ち5月22日(火)に開催されました。当日は、残念ながら雨天のため体育館での開催でしたが、毎年本会からスポーツフェスタ時に着用するTシャツを全新生、教員に贈呈しております。今年も「Navy blue」のTシャツをユニフォームとして着用し健闘しましたが、結果は12学科中12位と残念な結果に終わりました。来年のより一層の健闘を祈念致します。

学科の近況

【卒業生および新入生】

昨年は東日本大震災により卒業式、謝恩会が自粛・中止となりましたが、本年は、平成24年3月25日に卒業証書伝達式が滞りなく執り行われ、無事171名が本学

科を卒業し、新たに満喜葉会正会員の仲間入りをしました。また、本年4月に動物資源科学科は140名を超える新入生を迎え、在籍者は四学年合計で613名(7月1日現在)となっています。本年度の一年生の男女比は、男子44名(29.9%)、女子103名(70.1%:男女とも過年度入学学生を含む)となりました。3年前入学学生(現学部4年次学生)の様に男女比がほぼ拮抗する学年も見られましたが、その後もここ十数年来の傾向と同様に「女性上位」が続いており、現在も学部内で最も女子学生在籍者が多い学科(在籍者の半数を超えているのは当学科と獣医学科、食品生命学科の3学科)となっています。

【退職・昇格・新任

および新研究室新設】

平成24年3月31日付けで、40年以上に亘り学科運営、学生教育にご尽力された小牧弘教授(飼養学研究室)が退職されました。小牧先生は教育、研究のみならず、満喜葉会事務局長も長年に亘り務められ、本会発展にもご尽力戴きました。今後のご健康とご多幸をお祈り致します。

小牧先生の退職に伴い、同研究室の梶川博准教授が本年4月1日付けで教授に昇格されました。また、小牧



高木早苗 助手

先生の後任として、高木(浅野)早苗先生が助手として採用されました。高木先生は、平成13年3月に本学科を卒業されました。その後、東京農工大学大学院に進学され、平成18年3月に博士(農

学)を取得された後、(独)畜産改良センターに勤務されていきました。今後のご活躍をお祈り致します。

昨年の畜産食品科学研究室からの新研究室(ミルク科学研究室)独立と同様、本年も平成24年4月1日付けで畜産経営学研究室から新たに畜産マーケティング研究室が増設されました。それに伴い、所属されていた小泉聖一准教授は上記同日付けで教授に昇格され、新研究室を主催されています。

草地学研究室所属の佐伯真魚専任講師は、本年4月1日付で准教授に昇格されました。

平成20年4月より実習助手と

して学科事務等にご尽力戴いた甲斐(旧姓:星)佳織さんは、本年3月31日付けで退職されました。後任として、須藤千絵(平成24年度3月本学科卒)が実習助手として採用されました。



須藤千絵 実習助手

【その他】

今年7月28日~29日にかけて、第2回オープンキャンパスが開催されました。オープンキャンパスは、現在年3回行われておりますが、第2回は例年研究室学生が主体となって、「研究室紹介(パネル展示)」を行っております。この2日間は、日頃の成果(?)を受験生に知って頂く良い機会となっております。学生も精力的に参加しております。来年以降も開催する予定ですので、満喜葉会会員の皆様もこの機会に出身研究室の現在を覗いてみてはいかがでしょうか。(山室 裕)



オープンキャンパス研究室説明会の様子

いもづる会

◇食品ビジネス学科◇

連絡先 地域環境経済学研究室
0466-84-3412 事務局長 磯田 みゆき
E-mail: miyuki@brs.nihon-u.ac.jp

平成24年度総会 懇親会を開催

HPに「校友のひろば」開設

6月2日(土)、平成24年度の総会および懇親会が学内で開催されました。総会では、この間の物故者に対する黙祷からはじまり、平成23年度の活動報告・会計報告と、平成24年度の活動計画・予算案が承認されました。前年に引き続き高い就職率をめざし、OB・OGとの就職懇談会など各種支援を行うことにしました。総会後は記念講演としてワタミファーム顧問から「企業の農業進出の現状と展望」について講演いただき大きな関心を得ました。引き続き本館地下1階のカフェテリアで盛大な懇親会に入り、多数の校友と準会員(学生)との交流の輪が広がりました。

また、校友の情報を広く共有し、学生との交流促進と学生の就活にも活用するため、いもづる会HPをリニューアルするとともに、校友の情報交換を活性化させるためHPにおいて「校友のひろば」を設置することとし、総会及び懇親会場でこの紹介も行われました。HPのURLは以下のとおりです。今後、多くの校友の方の情報提供をお願いいたします。食品ビジネス学科HPからもアクセス可能です。

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/index.html>

学科の近況

スポーツフェスタ2012優勝

【新入生】

当学科では本年度は164名の新入生を迎え、元気にスタートしました。なお、このうち男子が72名、女子が92名と昨年以上に女子学生の割合が高くなりま



新入生歓迎会

した。昨年度は、東日本大震災と原発事故の影響で新入生歓迎会を実施できませんでしたが、本年度は、いもづる会会長も参加し、①大和市中でレストランを経営する校友・真弓氏らによる「大学で学び、どう進路につなげたか」の講演会、②ゼミ連上級生らの企画によるオリジナル商品パッケージづくりのコンテスト、③ビンゴ大会などを交えた食事会など、盛大かつ充実した歓迎会を実施しました。

5月22日(火)には、体育館において例年どおり「スポーツフェスタ2012」が開催されました。新入生は、自らの創意工夫によりデザインしたお揃いのTシャツを着て学科一丸となって奮闘し、また団結と熱意のこもった応援を展開しました。これにより、各種目とも上位の成績を獲得し、7年ぶりに総合優勝を勝ち取りました。6月27日には、これを祝って1年次学生と教職員合同で祝勝会を開催しましたが、当日の企画を1年生自身が独自に考案するなど大いに盛り上がりました。



スポーツフェスタ2012

待望の調理実習室開設

【新実習科目開講】

本年度は、学科名改称と、フードコーディネーター・フードスペシャリストの資格取得等を可能にしたカリキュラム改正の3年目に入り、資格試験対策にも鋭意取り組んでいるところです。その一環として、資格に対応する「調理学実習」等に使用する「調理実習室」が7号館4階に開設されました。同種の施設と比較しても優れた内容を誇る施設であり、今年度当初から実習・実験に活用され好評を得ています。これに伴い、昨年度は集中講義で行った実習も講義期間内に開講できるようになりました。これら実践的な実習科目の強化により、社会に貢献できる人材の育成が期待されます。

【人事】

本年3月末をもって、盛田清秀教授が退職され、東北大学に転出されました。3月には竹下広宣専任講師が1年間のイタリア海外研修から帰国され、4月には、川手督也准教授、高橋巖准教授が教授に昇格されました。今後の学科への貢献が期待される所です。なお、元学科専任教員上野恒雄先生が2011年12月9日に、また同じく山根勝次先生が2011年12月18日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

(高橋 巖)

あすなる会

◇森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3674 事務局長 阿部 和時
E-mail: kazuab@brs.nihon-u.ac.jp

平成23・24年度総会 懇親会を開催

平成23・24年度総会が平成24年1月21日（土）に湘南キャンパス10号館の1011教室において開催されました。21・22年度事業報告、決算報告、監査報告、23・24年度事業計画案および予算案、東日本大震災に伴う対応、役員の改選、積立金の状況などの事柄について、報告と協議が行われ、承認されました。

先の大震災における会員および準会員（在学生）の被災状況を調べたところ、岩手県の陸前高田市で家屋全壊、宮城県の女川町で全壊、同県の東松島市で全壊、仙台市で床上浸水、福島県の富岡町で全壊、千葉県の銚子市で半壊、同県の浦安市での半壊の具体的な被害がわかり、被災された会員および準会員の方々へお見舞いをお届けしたことが報告されました。

これらの被災状況の把握には、次の皆様（カッコ内は卒業期）、岩手県の梅垣俊一郎氏（14）、清川信夫氏（20）、佐々木貴史氏（36）、宮城県の木村敏夫氏（14）、宗形雄一氏（21）、福島県の松本秀樹氏（30）、佐藤光一氏（36）、茨城県の村上富士夫氏（20）、綿引建夫氏（30）、石山高至氏（44）が献身的に情報を収集して下さったほか、多くの会員に協力いただいたことの報告とお礼が申し述べられました。

新しい役員として、会長には濱本和敏氏、副会長に金子賢治氏、宮島吉夫氏、松崎和夫氏、薄田 晃氏、監事に佐藤貴喜氏、青木 毅氏、相談役に赤塚敏夫氏、



懇親会（本館カフェテリア）



準優勝を奪取した森林資源科学科1年生

事務局長に阿部和時氏、事務局長補佐に宮野則彦氏、会計に小坂 泉氏、会報に鍛代邦夫氏がそれぞれ選出されました。

総会終了後には、来賓を交え、キャンパス内の本館カフェテリアにおいて、懇親会が開催されました。

教員の異動

櫻井尚武先生が、平成24年3月に退職されました。

平成24年4月には、丸山 温教授が着任されました。

OB・OG就職情報懇談会 を開催



学生と対面して就職への心構えを伝える卒業生（あすなる会会員）

平成23年11月16日には、森林資源科学科3年次学生対象のOB・OGによる就職情報懇談会が開催されました。あすなる会では、森林資源科学科が開催するこの行事を毎年全面的に支援しています。

今回は17企業で活躍する学科を卒業したOB・OGが来訪くださいました。卒業生の皆様には、お忙しいなか大変ありがとうございました。学科学生に対して、各業界の就職情報や、就職に向けての心構えなど、対話方式で伝えていただき、学生にとっては直に先輩と対面して遠慮なく質問でき、有意義な催しとして定着しています。

あすなる会としても学科としても、続けていきたい行事の一つです。広く会員の皆様のご協力をお願いいたします。

スポーツフェスタで 森林資源科学科1年生準優勝

学部が毎年5月に1年次学生を主体にして行われるスポーツフェスタ（運動会）で準優勝を勝ち取りました。大縄跳び11位、綱引き優勝、ドッジボール準優勝、企画リレー予選敗退、総合順位準優勝！久々の好成績を得て学科では皆喜んでいました。

森林資源科学実習で 竹林整備

森林資源科学実習は1年生が入学して初めて受ける実習です。この実習は各教員がそれぞれ掲げる多くのテーマから、学生が選択して参加するものです。



森林整備に望む1年生

そのうちのひとつに竹林整備があります。これはキャンパス近くの農家の竹林をお借りして、実際に整備をしてみようとする実習です。

初めて触るチェーンソーと刈払い機を使いながら、みるみる竹林が美しく整備されていきました。1年生も我ながらびっくりしていた様子です。

（鍛代邦夫）

桜 水 会

◇海洋生物資源科学科◇

連絡先 海洋生物資源生産学研究室
0466-84-3688 事務局長 小島 隆人
E-mail: kojima.takahito@nihon-u.ac.jp

平成24年度桜水会 総会・懇親会を開催

平成24年6月16日(土)午後1時より湘南キャンパス10号館で平成24年度総会・代議員会・理事会が開催され、平成23年度事業報告、決算報告、監査報告、平成24年度事業計画案、予算案などが審議され、全て承認されました。続いて午後2時30分より桜水会創立60周年記念同窓会が開催され、吉田良之桜水会会長の祝辞の後、ミジンコ博士で知られている世界的なサックス、クラリネット奏者である坂田 明氏による記念講演「ミジンコから見え



平成24年度桜水会創立60周年記念講演

る世界」が開催されました。さらに午後4時より食堂棟3階NUBSホールで会員・学科教員に加え、準会員である4年次在学生数十名も参加しての懇親会が盛大に開催されました。特に、今年度の懇親会は、平成23年3月11日に起きた東日本大震災の影響により謝恩会や卒業記念パーティー等が一切実施されなかった平成22年度卒業生(第60期)が招待されての合同懇親会であり、また坂田氏によるサックス演奏会により大いに盛り上がりしました。

学科・準会員への支援

今年度の前期には、1年次の必修科目である「海洋生物資源科学概論」の中で、卒業生の体験談などを参考に将来就いてみたい職業を見出す「職業の研究」の一環として、4月17日に倉形邦弘氏(第39期、新江ノ島水族館)、5月29日に村上彩菜氏(第52期、共立製菓(株) 先端技術開発センター)と椎名昭子氏(第54期、(株)東洋信号通信社)、6月5日に長谷川勝治

氏(第20期、元・静岡県立焼津水産高等学校校長)、6月12日に小島浩一氏(第36期、月島食品工業(株) 研究所)と木下淳司氏(第42期、神奈川県環境農政局水産課)、7月17日に相川健志氏(第51期、特定非営利活動法人(NPO法人) Dream eggs ゆめたま)と齋藤高志氏(第54期、(株)ヤマリア)が講演しました。3年次の科目である「特別講義」では、本学科海洋生物資源応用コース(JABEE対応コース)の外部評価委員を委嘱されている会員が技術者教育の一環として、6月27日に尾崎之紀氏(第37期、味の浜藤(株))、7月4日に辻 雅司氏(第24期、(株)水産タイムズ社)、7月11日に市橋 理氏(第37期、アジア航測(株))、7月18日に新井健次氏(第18期、新井技術士事務所)が講義を行いました。また、1年次の必修科目である「海洋基礎実習」への支援、スポーツフェスタ(学部運動会)の学科Tシャツ作成を支援しました。今年度中には、学科広報用パンフレットの作成、学科受験生対策勉強会への補助、在学生の学会参加費等の補助、卒業時の記念品の贈答、就職活動の支援等をする予定です。

海洋生物資源科学科の近況

【新入生・在学生】本年4月に151名(男子94名、女子57名)の新入生を迎え、現在637名(男子437名、女子200名)の学生が在籍してい



新入生オリエンテーション鵠沼海岸での地曳き網実習

ます。新入生オリエンテーションとして4月28日(土)に鵠沼海



新入生オリエンテーションアジを3枚に下ろす調理実習

岸で地曳き網と新江ノ島水族館見学を行いました。当日は、快晴の下、教員・学生が一緒に網を曳き、またアジを3枚に下ろす調理実習も行いました。前期の「海洋生物資源科学概論」では各教員が10名程度の新入生を担当して行う少人数制のセミナー形式の授業(フレッシュマン・セミナー)を行いました。

【応用コース・広域コースならびに食品衛生コース】海洋生物資源科学科では「海洋生物資源応用コース」あるいは「海洋生物資源広域コース」のいずれかを選択する2コース制をとっており、「海洋生物資源応用コース」は日本技術者認定機構(JABEE)より認定を受けた技術者教育プログラムにより海洋生物資源科学の専門技術者育成をしています。2010年11月の継続審査により「海洋生物資源応用コース」は、日本技術者教育認定機構(JABEE)から6年間(2010年4月～2016年3月)の農学一般関連分野・水産系の技術者教育認定プログラムとしての継続認定を受けました。また、厚生労働省より認定を受けた食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格取得コースである「食品衛生コース」も別途に設定しています。

【人事】吉原喜好教授が本年3月31日付けで定年退職されました。先生は、本学科(旧 水産学科)ご卒業後、45年間の長きに渡り本学科で教鞭を執られ、平成14～20年度には下田臨海実験所長、平成21～22年度には学科主任を務められ、学科のために多大なご尽力をされました。平成24年4月に高井則之先生が准教授に昇格されました。

桜水会事務局より

平成24年7月より桜水会事務局長は松宮政弘教授より小島隆人教授に交代しました。桜水会々員の皆様の近況や同期会等の活動のご様子を事務局までお知らせください。桜水会のホームページは<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~osuikai/> からご覧いただけます。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご活用ください。

(荒 功一)

工 学 会

◇生物環境工学科◇

連絡先 環境土木施設工学科研究室
0466-84-3828 事務局長 青木 正雄
E-mail: m--aoki@brs.nihon-u.ac.jp

会員・準会員との交流・情報交換を通じて更なる活性化をめざす

酒川和男会長を中心とする第17期体制のもと、会の目的である“会員の親睦”と“母校の発展”を実現すべく、学科や準会員との密接な関係構築に向けた数々の協力・支援活動に加え、工学会HP(<http://www.baekougakukai.org/>)の充実など会員への情報発信を展開しています。

平成23年度

総会・講演会・懇親会の報告

平成23年11月26日(土)に23年度の工学会総会・講演会・懇親会を開催いたしました。講演会では、本学科の准教授の都 甲洙



都 甲洙准 教授による講演の様子

先生をはじめ、学科卒業生の市村久明氏(60年卒)を講師にお招きいたしました。都先生からは「匠の技をサイエンスする」と題し



市村久明氏(サッポロビール(株))
による講演の様子



2匹の鯛のラッキー・エビスで
工学会に福を呼ぶ

たご講演、また市村氏からは、ご自身のお勤め先である酒造メーカーでの体験から「ビール・発泡酒・新ジャンルについて」と題してご講演をいただきました。懇親会では、学部執行部の先生方をはじめ校友会の各分会長を迎えて、会員と準会員との交流がなされました。平成24年度も11月24日(土)に湘南キャンパスにて総会とあわせ講演会・懇親会を予定しております。皆さまの参加を楽しみにお待ちしております。

工学会 創立50周年記念事業 に向けて準備中

工学会は、来年度に創立50周年を迎えます。これまでに6680人の校友が誕生してきました。これに際して事務局では、現在、創立50周年式典・祝賀会の開催および記念誌出版に向けて準備委員会を立ち上げ準備を進めています。

式典・祝賀会は、平成25年11月9日(土)の開催を予定しており、多くの皆さまの参加をお待ちしております。また、記念誌では、50周年に際しての皆さまからの寄稿を順次お願いする所存です。こちらへのご協力もよろしくお願い致します。

学科の動向

本学科はJABEEの地域環境工学プログラム・農業工学関連分野の認定継続を得ることができました。会員の皆さまのご協力に感謝いたします。今後とも引き続き、OB・OGの皆様で技術士・技術士補を取得の方は、学科HPから情報登録のご協力お願い致します。

[人事昇格・新任]

平成24年4月に、宮本眞吾先生が教授に、内ヶ崎万蔵先生が准教授に昇格されました。おめでとうございます。



川越義則 准教授

また、川越義則 准教授、斉藤丈士 助教、三谷奈保 助教が新たに就任されました。先生方には、今後、更なるご自身の研究・教育の発展に加え、学科振興へのお力添えをお願い致します。

[学科の教育・研究体制]

先生方の昇格・新任により本学科の体制は、平成24年度からバイオメカトロニクス研究室と動物生態環境学研究室の2研究室が新設され、9研究室+学科事務室、による教育・研究体制をとっています。校友の皆さんには馴染みの薄い研究室名になっているかもしれませんが、構成教員名をご覧になり、かつてご所属の研究室を確認ください。学科HPにも動向や各研究室の活動等を掲載しています。あわせてご参照ください。

[訃報]

生物生産流通施設学研究室の川西啓文教授が平成24年5月にご逝去されました。誠に残念でなりません。心からご冥福申し上げます。

地域環境計測学研究室(現在リニューアルに向けて調整中)の齋藤公三専任講師が平成24年6月にご逝去されました。齋藤先生は平成22年度に退職され、平成23年度からは当学科の非常勤講師として教鞭を執っておりました。心からご冥福申し上げます。

[事務局より]

会員の皆さまで、住所変更や改姓がございましたらお手数ですが上記までE-mail又はお葉書にてご一報ください。

(藤沢直樹)



三谷奈保 助教



斉藤丈士 助教

FT会

◇食品生命学科◇

連絡先 食品健康解析学研究室
0466-84-3987 事務局長 千野 誠
E-mail: chino.makoto@nihon-u.ac.jp

FT会活動報告

○FT会理事会および総会の開催

FT会理事会が平成23年4月14日に、FT会総会は平成23年6月9日に本学湘南校舎食品生命学科会議室において開催されました。総会では平成23年度度事業報告および会計収支決算が承認されました。さらに、平成24年度事業計画案および会計収支予算に関して承認されました。

○準会員（在学生）への活動

平成23年3月25日に食品科学工学科の最終期が卒業しました。卒業式において、FT会オリジナルのネクタイピンとボールペンを記念品として贈呈しました。また、第47期学生(4年生)の中からFT会長賞を渡邊 沙也香さん、タイからの留学生スィーウォンラートニパーワンさんに授与しました。また、学部スポ

費を補助しました。スポーツフェスタの成績は、僅差の3位でした。3年生には、教員との懇親会へ飲食物の補助をしました。

学科の近況

○人事および研究室の新設

平成24年4月1日付で荻原博和先生が教授に、鳥居恭好先生(食品資源利用学研究室)と古川壮一先生(食品微生物学研究室)が准教授に昇格されました。また、食品資源利用学研究室に成澤直規先生が助教として採用されました。成澤先生は、平成13年度、本学科を卒業され、昨年まで国立感染症研究所で活躍されていました。



成澤 先生

一方、平成24年3月31日付で食品生命機能学研究室の上野川修一先生が退職されました。上野川先生は腸内細菌の免疫機構の研究から、食品先端食機能センターの設立、学科および学部

さらに、平成24年度から、「食の安全・安心」に一段と高く対応するため、食品衛生学研究室が立ち上げられました。食品衛生学研究室は荻原博和先生が主催されます。なお、研究室の新設に伴い、本学科は、7研究室で下記のように現在、構成されています。

食品生命機能学研究室

細野 朗 准教授
高橋恭子 専任講師

食品健康解析学研究室

山形 一雄 教授
松藤 寛 准教授
千野 誠 専任講師 (FT会事務局長)

食品資源利用学研究室

竹永章生 教授(学科主任)
鳥居恭好 准教授
成澤直規 助教

食品生命工学研究室

今井正直 教授
陶 慧 専任講師

食品創成科学研究室

小田宗宏 教授
鈴木公一 専任講師
阿部 申 専任講師

食品微生物学研究室

森永 康 教授
古川壮一 准教授

食品衛生学研究室

荻原博和 教授

学科事務室

稲葉由貴 実習助手
光野亜希 実習助手



1年生スポーツフェスタ



1年生軽井沢フレッシュマンセミナー

スポーツフェスタで新入生へ飲食物の補助と軽井沢にて行われたフレッシュマンセミナーの懇親会

の教育にご尽力されました。上野川先生の今後ますますのご健勝をお祈り申し上げます。



4年生研究室対抗球技大会

事務局より

会員の方々に、住所変更や改姓などがございましたら、ぜひ事務局までお知らせ下さい。また、新しくFT会のホームページ (<http://ftkai.net/>) から各種変更届を受け付けております。(阿部 申)

拓 友 会

◇国際地域開発学科◇

連絡先 熱帯資源作物研究室
0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸
E-mail: kurauchi@brs.nihon-u.ac.jp

平成24年度幹事会の報告

平成24年度の総会に代わる幹事会が平成24年7月21日（土）に市ヶ谷で開催されました。

第1議案「平成23年度活動報告ならびに決算報告」が審議され、慎重審議され承認されました。

第2議案「平成24年度事業計画ならびに予算案」が審議されました。平成24年度からは「同期会の開催」に補助金を支給することが承認されました。10名以下の場合には1万円、10から20名までは2万円、20名以上は3万円が支給されます。希望される場合は事前に事務局に申請してください。開催後は、実施報告書と開催写真を提出して頂きます。

第3議案「事務局長の交替」は、長年勤めていた早川治氏から倉内伸幸氏（昭和62年卒）へ事務局長を交替する原案が会長から提案され、全会一致で承認されました。

平成23年度拓友賞授与

平成23年度の拓友賞は、秋山大樹さん（神奈川県出身）が国際地域開発学科より推薦されましたので、平成24年3月21日に実施された卒業パーティーの席上、内田会長より表彰状ならびに副賞が授与されました。第59代卒業生を代表して今後の本会活動に積極的に協力いただくことになりました。

平成24年度 学科海外研修旅行開催

平成24年8月21日～8月28日まで学科主催の海外研修旅行をベトナム・タイで実施しました。引率教員は、朽木昭文教授、菊地香専任講師、與儀佳奈子実習助手の3名で、参加学生は11名でした。両国とも、JETROや



海外研修

工業団地を見学し、東南アジアにおける日本の影響を客観的に感じられる学び多き研修旅行でした。

活躍する拓友

昭和50年卒、坪井達史（つばい たつし）JICA稲作上級アドバイザー

坪井氏は、卒業後すぐに稲作指導でフィリピンに青年海外協力隊として派遣されたのを皮切りに東南アジア、中東、アフリカで一貫して稲作の技術協力の道を歩んでこられました。特に最近十数年間はアジアイネとアフリカイネの雑種であるネリカの普及と研究に尽力され、2008年にはアフリカ開発会議（TICAD IV）で招待講演されました。氏の国際協力活動はテレビ東京により30分間の特集番組が放映されるほど注目を浴びました。これらの功績は、平成24年度日本熱帯農業学会で磯賞、平成24年度外務大臣賞を受賞され高い評価を受けています。また、氏の活動拠点であるウガンダのJICAプロジェクトから本学科卒の3名のJICA専門家（平成3年卒糟谷正広：マダガスカル、平成15年卒長澤一寿：カメルーン、平成16年卒松本俊輔：ウガンダ）と7名の協力隊員が育っています。



農家圃場での講習会

在校生の近況

平成24年9月1日現在、1年生160名、2年生160名、3年生169名、4年生153名の合計642名（うち男子407名、女子235名）が在籍しています。海外留学する学生も増えており、そのうちの1名の紹介をいたします。

『アメリカ留学体験記』

4年 岩崎 恵利



私は日本大学派遣留学生として、アメリカのオレゴン大学に約9ヵ月間留学をしました。実際にアメリカの大学で授業を受けることにより、現地の学生の授業に対する意欲や積極性を目の当たりにしました。特に強い印象を受けたのは、授業内での生徒の発言力です。確かに個人差はあるものの、自分の意見や疑問点に対して積極的に発言する学生達の姿は私の中で印象的であり、自分も負けていられないと強く感じました。小さなことでも学生であるからこそ堂々と発言・質問する姿は、私たちも見習わなければいけないと思います。本留学生活を通して経験したこと、学んだことはこれからも色々な形で自分の将来に活かしていきたいです。

拓友会事務局より

拓友会ホームページ
<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~takuyu/index.html>をご覧ください。また、会員各位の近況や同期会などの活動の様子もお知らせ下さい。住所変更もホームページから行えます。

（倉内伸幸）

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 蛋白質科学研究室
0466-84-3700 事務局長 司馬 肇
E-mail: chang@brs.nihon-u.ac.jp

学科の近況

現在応用生物科学科の在籍学生数は607名、学年別では1年生148名(男89名、女59名)、2年生145名(男85名、女60名)、3年生172名(男111名、女61名)、4年生142名(男90名、女52名)となっています。

昨年度は151名(男94名、女57名)の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。卒業生のご活躍を期待します。

人事

平成23年12月に核酸科学研究室の高橋秀夫教授が、平成24年1月に動物細胞学研究室の佐藤嘉兵教授が退職されました。両先生には、本学科のために長年ご尽力いただき誠にありがとうございました。平成24年4月には、生体分子学研究室の青木俊夫先生が教授に昇格されました。今後さらなるご自身の研究の発展に加え、学生の教育へのお力添えをお願い致します。

イベント

平成23年12月11日(日)に、研究室対抗の球技大会を行いました。また平成24年4月27日(金)に、新入生の相互交流や教職員とのコミュニケーションを図る目的で、食堂棟の3階において新入生歓迎会を行いました。学科の教職員と120名以上の新入生が参加しました。皆、楽しく懇談し、親睦を深めていました。またポ

ランティアの4年生や大学院生も参加し、講義や学生実験、さらに研究室の様子などを紹介していました。

同じく5月には例年通りスポーツフェスタが開催され、学生、



スポーツフェスタ

教員ともに統一された黒色のTシャツを着て競技や応援を行いました。あいにく当日は雨で、体育館で競技が行われましたが、皆楽しく参加していました。成績は例年になく良く、4位でした。

5月27日(日)と7月28日(土)、29日(日)には、学部のオープンキャンパスが開催されました。



オープンキャンパスポスター

青木教授(植物はなぜ食べ尽くされないのか)と舩廣専任講師(遺伝子組換え、タンパク質テクノロジーを駆使すると!)による模擬講義が行われました。また4号館で応用生物科学科の各研究室の展示を行いました。7月のオープンキャンパスでは307名の生徒及び保護者が来場されま



模擬講義

した。研究室の展示では、学生、大学院生、教員が研究内容をわかりやすく紹介し、さらに模擬



模擬実験

実験(DNAを目で見よう、細胞が光る<GFP発現細胞>)等も開催されたいへん好評でした。



学科説明会

また、核酸科学研究室、蛋白質科学研究室、生体分子学研究室、生命工学研究室は研究室の開放を行いました。



進学相談

事務局より

事務局では会員の皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しています。ご一報下さいませよう、お願い致します。

(明石智義)



研究室対抗の球技大会

短期大学部湘南校友会

◇短期大学部生物資源学科◇

連絡先 短期大学部生物資源学科 教養・国語研究室
0466-84-3749 事務局長 蒲原 義明
E-mail: kamohara@brs.nihon-u.ac.jp

平成24年度 総会・懇談会の開催



総会にて福井会長挨拶

平成24年6月30日(土)3時湘南校舎五号館三階531講義室において平成24年度短期大学部湘南校友会総会が開催されました。平成23年度業務報告・決算報告、監査報告等の審議がなされ、承認され、平成24年度の事業計画、予算案が決定されました。

【懇談会の開催】



懇親会の様子

上記総会後、4時より本館スエヒロにて懇談会が開催されました。生物資源科学部学部長・河野英一教授、福井祥子会長から挨拶があり、生物資源科学部の各校友会分会の皆様方にもご参加いただき、終始和やかな雰囲気の中でのパーティとなりました。

学科の近況

【新入生】

本年度は新たに166名(女子:87名、男子:79名)の新入生が入学してきました。現在、二年生と合わせ334名(女子:179名、男子:

155名)の学生が在籍しています。4月13・14日には軽井沢新入生研修会が開催されました。昨年は震災の影響で軽井沢研修が中止になりましたので二年振りの実施となりました。お天気も恵まれ、軽井沢の自然の中で新入生の相互交流や教職員、上級生とのコミュニケーションを図る事ができました。また、5月22日にはスポーツフェスタが行われ、結果は、総合順位7位でした。

【卒業生】

平成23年3月25日に157名が無事卒業しました。武道館で卒業式、湘南校舎にて卒業式及び学位伝達式が執り行われました。翌日には卒業パーティがヨコハマ グランドインターコンチネンタルホテルにて華やかに行われました。卒業後の進路は、生物資源科学部への編入82名(三年次編入:37名、二年次編入:45名)、他大学への編入14名、専門学校6名、就職11名、その他はアルバイト・家事・就職活動中などでした。他大学・他学部の編入は麻布大学、茨城大学、東京都市大学、東京農業大学、昭和大学、鎌倉女子大学、恵泉女子学園大学、日本大学国際関係学部など、就職先は東京

都交通局(都営地下鉄)、日本生活協同組合ユーコープ事業連合コープかながわ、横須賀市青果物株式会社、(合)鈴木牧場、ヨネヤマプランテーションなどが挙げられます。

人 事

【昇格】

平成24年4月1日付けで光澤浩准教授(分子遺伝学研究室)が教授に昇格されました。教育と研究において、今後ますますのご活躍を期待しております。

【退職】

角田亜美実験助手が退職されました。長い間ありがとうございました。

事務局より

湘南校友会のHPが開設されました。

URLは <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~shonan/> です。

または日本大学生物資源科学部校友会のHP『分会・支部一覧』のページからジャンプできます。是非一度ご覧ください。会員の方々に住所変更や改姓がございましたら、HPより変更手続きを行ってください。(文責 山内綾子)



スポーツフェスタ

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先

〒981-3131 仙台市泉区七北田字町31番地
小野 隆事務所 支部長 小野 隆
TEL.022-372-4637 FAX.022-374-8844
E-mail:takashi@enax.net

震災で延び延びになっておりましたが「思い出の地『下馬・六会・馬堀』を訪ねるツアー」を7月14日開催いたしました。湘南キャンパス着後、植物資源科学科窪田先生に校舎内をご案内いただき、学部長を表敬訪問いたしました。



14時から平成24年度学部校友会総会、16時から懇親会へ出席し、宿泊先の湘南台第一ホテルでは明日訪ねる「思い出の地」に思いを馳せ二次会懇親会は大いに盛り上がりしました。

翌15日、現在は中学校及びプールになっていた横須賀市馬堀の旧日大校舎跡地を見学し、防衛大学の正門前まで見学し昼前に下馬校舎を訪問。外周を回って、正面の守衛さんに校内見学をお願いすると快く許可をいただきました。懐かしい思い出がよみがえり実験室前では感慨無量でしばらく離れられない方も。内部の備品等はほとんど撤去されていましたが建物は当時のままで、当時の学園生活が懐かしく思い出されました。

隣の明治薬科大学は大規模なマンションとなっていました。周辺の至る所に当時の様子が残っており、良く通った中華食堂「一番」で冷やし中華、野菜炒めの昼食を食し童心に返りました。帰り道、あまりにも変わりすぎた三軒茶屋に驚き、渋谷、青山通りを経て国会前から皇居を横目に新しく復元した東京駅から楽

しい思い出と共に帰郷いたしました。窪田先生御親切にご案内いただきありがとうございました。

なお、当支部の総会・懇親会は9月15日(土)16時より仙台駅前、仙台国際ホテルにて開催致します。当日は、内田会長はじめ深松オール日大校友会宮城県支部長、山形県支部植松支部長。本校提携高校第一号の東北高校前山教頭のご臨席を予定しております。

(事務局長 櫻田昇)

山形県支部の近況

連絡先

〒990-2433 山形市鳥居が丘4-55
日本大学山形高等学校 池田 卓郎
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail:t_ikeda@ymgt.hs.nihon-u.ac.jp



山形県支部総会集合写真(H24.2.18)

第20回総会を平成24年2月18(土)、かみのやま温泉、古窯にて開催しました。

総会には、学部校友会会長 内田俊太郎氏、植物資源科学科教授 井上弘明氏、日本大学山形高等学校・中学校事務長 大沢辰夫氏、生物資源学部校友会宮城県支部監事 武藤正氏工科系校友会山形県支部支部長 長瀬健一氏、経済学部校友会山形県支部幹事長 高橋彰喜氏のご臨席いただきました。

また、平成18年より支部長を務められた小松支部長に学部校友会 内田会長より感謝状の贈呈がありました。開催を前に平成23年3月11日東日本大震災で亡くなられた方に黙祷を捧げ、小松文嗣支部長挨拶後、来賓諸兄の紹介があり、総会協議が行われ、平成23年度収支決算、平成24年度予算(案)が可決された後定期役員改選があり、支部長に植松恒美氏(生命化学科)、副支部長に佐藤正義氏(植物資源化学科)、幹事長に池田卓郎氏(生命科学化)が選出され就任しました。総会終了後、講演会に移り、講師に植物資源科学科教授 井上弘明先生より「果物の魅力」と題した講演をいただき、会員全

員学生時代に戻り、熱帯果実を主体に勉強させていただきました。続いて、校友会会長 内田俊太郎先生より、安心、安全、ライフを目指す校友会の近況をご報告いただきました。

懇親会に移り、来賓の方々、会員全員の親睦を深めました。恒例となった自己アピールでは学科毎に行うため、来賓の方々も参加していただき、全員参加の懇親会となりました。お披露喜後、二次回は山形の地酒を心ゆくまで堪能し、温泉ならではの総会となりました。

高知県支部の近況

連絡先

〒780-0084 高知県高知市南御座12-3
高知県支部事務局 前川 卓也
TEL.088-880-0538
E-mail:maekawa@mb.inforioma.or.jp



平成25年8月25日(土)料亭「葉山」において、第24回高知県支部総会と懇親会が開催されました。ご来賓として、内田学部校友会会長、河野学部長、茂澤学部校友会顧問、支部特別会員高坂元教授のご臨席を賜り、また、県内から集まった校友16名の参加者がありました。

まず、内田校友会会長より本部校友会の活動状況や取り組み等のご報告があり、河野学部長からは生物資源科学部の受験について偏差値が非常に高くなっている状況や、(地方学生に対する学生寮的なものの建設計画に対する支援)さらに、最近、大学で生産されたものを利用して日本大学オリジナルラベル純米酒Nラベルとオリジナル本格芋焼酎「自主創造」についてのPRを含めたご挨拶をいただきました。

引き続き総会議事に入り、森田支部長が議長となり会議の進行を計りました。平成23年度事業報告、決算報告、監査報告の後、原案どおり承認され、続いて平成24年度事業計画(案)、予算(案)が原案どおり承認されました。

支部会則の変更につきまして

次ページへ続く



前ページより続く

は旧学科名のままであった一部分科会の表記を現行の学科名称に統一することが上程され、可決されました。

以上が原案どおり承認可決されました。午後7時ごろから茂澤学部校友会顧問の乾杯の発声で懇親会に移りました。

内田校友会会長に頂いた焼酎と日本酒を酌み交わし、土佐料理を肴に賑やかに会話が進み楽しい時間を過ごしました。

閉会では、支部特別会員高坂元教授から来年は25年周年に当たるので、是非、盛大な総会を開催してほしい旨の挨拶をいただきました。

最後に、岡林氏のエールで大学校歌を歌い、次回の再開と25年周年記念への取り組みを確認し閉会いたしました事をご報告させていただきます。

神奈川県支部の近況

連絡先

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
神奈川県支部事務局 岩野 秀俊
TEL&FAX.0466-84-3627
E-mail:iwano.hidetoshi@nihon-u.ac.jp

平成23年10月1日(土)横浜駅東口「崎陽軒本店」において、平

日本大学生物資源科学部校友会

役員・事務局名簿

平成24年10月1日現在

名誉会長	河野 英一	幹事
会長	内田俊太郎	国際昭和43年卒
副会長	木嶋弘倫	生化昭和37年卒
	石川 稔矩	植物昭和40年卒
	山本 捷	動物昭和44年卒
	島田圭一郎	食ビ昭和39年卒
	濱本和敏	森林昭和42年卒
	関村 具由	食生昭和41年卒
幹事	赤木洋行	植物昭和47年卒
	葉山 嘉一	植物昭和53年卒
	浜野光年	生化昭和42年卒
	関泰一郎	生化昭和59年卒
	中川秀樹	獣医昭和40年卒
	津曲茂久	獣医昭和48年卒
	鳥海 弘	獣医昭和50年卒
	小杉幸彦	動物昭和42年卒
	丹羽美次	動物昭和48年卒
	横川 屹	食ビ昭和42年卒
	磯田みゆき	食ビ昭和61年卒
	宮島吉夫	森林昭和46年卒
	阿部和時	森林昭和51年卒
	吉田良之	海洋昭和41年卒
	橋ヶ迫覚	海洋昭和44年卒
	新井健次	海洋昭和44年卒

事	酒川和男	環工昭和47年卒
	鈴木重則	環工昭和52年卒
	青木正雄	環工昭和46年卒
	栢英彦	食生昭和41年卒
	千野 誠	食生昭和50年卒
	小谷田 操	国際昭和52年卒
	倉内伸幸	国際昭和62年卒
	大谷 憲司	応生平成4年卒
	飯塚 崇	応生平成4年卒
	司馬 肇	農化昭和55年卒
	福井祥子	短大昭和62年卒
	滝沢 章	短大昭和40年卒
	蒲原義明	文理昭和53年卒
監査役	石井賢治	植物昭和28年卒
	有賀豊彦	生化昭和39年卒
	長尾壯七	獣医昭和27年卒
顧問	茂澤 杲	生化昭和26年卒
相談役	遠藤 克	動物昭和41年卒
	村山 進	食ビ昭和31年卒
	赤塚敏夫	森林昭和40年卒
	鈴木勝春	短大昭和34年卒
幹事長	早川 治	国際昭和47年卒
事務局	宮島吉夫	森林昭和46年卒
事務局員	熊澤恵美子	

活動の一環として、このソバの栽培を始めとして、一坪農園ではカボチャ、ナス、エダマメ、ジャガイモなどの多くの農作物の作付や栽培を実施しています。毎週月曜日の午前中は、鈴木明夫理事のご指導のもと、各会員が協力しながら農作業に汗を流し、栽培や収穫の喜びを共有しています。



一坪農園での農作業

神奈川県支部の活動は、学部校友会のWebサイト「分会・支部一覧」にHPを掲載していますので、是非ご覧下さい。

また、ご意見ご希望などがありましたら、細野広報理事(hosono.hidekazu@gmail.com)までご連絡をお願い致します。(神奈川県支部事務局 岩野 秀俊)

◆校友会からのお知らせ◆

1 平成25年度通常総会及び懇親会の開催について

(1) 通常総会

- ①日時 平成25年7月13日(土) 午後2時から
- ②場所 日本大学生物資源科学部 NUホール
- ③議題ア 平成24年度事業報告及び平成24年度会計決算
イ 平成25年度事業計画及び平成25年度会計予算
ウ その他

(2) 懇親会

- ①日時 平成25年7月13日(土) 午後4時から
 - ②場所 日本大学生物資源科学部 食堂棟
- なお、時間、場所等は変更することがありますので、予めご了承願います。

2 学園(藤桜)祭について

平成24年度の学園祭は、藤桜祭実行委員会主催で11月3日(土)から5日(月)までの3日間学部内で開催されます。なお、3日(土)、4日(日)の2日間学部主催の進学相談会が同時に開催されます。

校友会では、ご来場されたOB・OGの方々に、休憩の場として1号館2階に「OB・OGの部屋」を準備いたしましたので、是非お立ち寄りください。

3 本部正会員の募集について

日本大学校友会本部では正会員の募集をしています。年会費1万円で、母校や後輩達を応援するために使われます。是非、入会をお願い申し上げます。申し込み用紙は校友会事務局にあります。

4 本会報に関するお問合せは、校友会事務局までお願いします。

- (1) 住所: 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
- (2) TEL: 0466-84-3799
- (3) FAX: 0466-84-3531
- (4) E-mail: koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

会報編集委員

農学校友会	磯部 勝孝	いもづる会	高橋 巖	F T 会	阿部 申
紫友会	袴田 航	あすなろ会	鍛代 邦夫	拓友会	倉内 伸幸
角笛会	手島 健次	桜水会	荒功 一	応用生物科学会	司馬 肇
満喜葉会	山室 裕	工学会	藤沢 直樹	校校友会	山内 綾子
				湘南校友会	

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL.0466-84-3799 FAX.0466-84-3531
E-mail:koyukai@brs.nihon-u.ac.jp
印刷所 ベーシックプリント
TEL.048-833-3086 FAX.048-833-3128